故大隈重信侯七七日に相当する年二十七日
故侯の出身地たる佐賀郡氏は日比谷の氏
葬に象つて佐賀市龍泰寺に於て侯の遺
髪を祀つて郡氏の葬を執行することとなつ
たこれが為め佐賀より同地の有力者で
前代議士永野静雄氏遺髪受取りの
ため地方を代表して上京すべく大隈家の方
ひは拾七日五十日祭に相当するため信
常侯自ら西下することが出来ないので永年
故侯の身辺に仕つた家令久松信親氏前

記永野氏と共に遺影を奉じ二十四日午前九時半の特別急行列車で東京駅発、西下のことゝ決定したが当日は信常代表者一同並に早稲田大学、女子大学、早稲田中学、早稲田実業学校等故代表関係の各学校職員生徒總代等東京駅に之を送り且つ前記各学校に於ては沿道に校旗掲揚し校友會に豫め通知を発したるを以て沿道各地の校友之を出迎かることゝなつて居る尚ほ沿道各地より途中への挨拶と希望との熱心なる申込みがあるので

遺髪は巾一尺二寸高さ一尺二寸の二重函に
納め金襴の布で之を被ひ寝台列車一室を
借り切る候宜を得ず窓際に簡単な壇を
設けて其上に安置し各駅に於ける慣例者
の希望に應ずることゝする尚は下関迄は客
行列車であるが九州に入つて門司からは佐
賀から軍隊が出迎へることになつて居るので
之に納めて各駅に停車することゝなる此貴
髪函を納める軍隊は二十六日佐賀到着
当日は同市、會所小路なる故佐誕生寺

地紀念館へ安置して同夜市民は同所に通
夜をなし翌日行列を以て葬場に運ぶことゝ
なつて居る因みに此誕生地紀念館へは故伯爵が
昨年に宮中参内の折献納して居た直垂
と大小とを紀念として永久に
限家から納めることゝなつて居る

社會部長　阿田讓二（株式）

（情報局長　市田弥一（株式））

朝日　社會部次長　ユザワ　紘芳夫（〃）

東京日日　社會部長　矢部

時事　情報局長　馬場恒吾

國民

万朝　〃　斯波貞吉

報知　高田和一郎

やまと

東毎

二六

都

中央
毎夕
大勢
夕刊
電通
帝通
日本通信
讀賣

大文通
鉄道部長 德丸庚坪
松山思三郎

水田印行

侍ガ之帝
一印本古古集門

文田脩　古庵　元元

番二二二二九

上乃解迄

01
水田明子

問題四